

国際統合医科学インスティテュート(IREIMS) 第33回セミナー

メタボリックシンドロームと骨粗鬆症とのリンク

演 題: **メタボリックシンドロームと骨粗鬆症とのリンク**

演 者: **太田博明 主任教授**

東京女子医科大学 医学部 産婦人科学教室

日 時: **平成20年11月10日(月) 17:30 ~ 18:30 講演**

18:30 ~ 19:00 意見交換

場 所: **東京女子医科大学 第二臨床講堂**

☆ セミナー親睦会 19:00 ~ 東京女子医科大学西病棟B 地下1階レストラン「コルネット」

親睦会費 一般 1,000円、学生 500円



骨粗鬆症

現在、骨粗鬆症は生活習慣病として位置づけられ、治療目的は骨折の防止にあります。骨粗鬆症は、閉経後女性のADL(activity of daily living)とQOL(quality of life)を阻害するばかりではなく、寝たきりとなり、死にも至る疾患でもあります。従って、予防の重要性が強調されるとともに、これまで薬物治療の対象とはならなかった骨折高リスク者に対しても薬物治療が推奨され、治療対象者を拡大する提言がなされています。この骨粗鬆症予防において、従来の閉経周辺期以降の中高年を対象とすることはもとより、今後は成長過程の若年期における日常生活の改善を通じた非薬物的介入(運動や栄養管理)が重要でしょう。

骨粗鬆症とメタボリックシンドローム

閉経後の女性では脂質代謝が劣化し、高脂血症や高血圧になる傾向があります。これは生活習慣の乱れによるものであり、内臓脂肪蓄積を起因とする各種の代謝異常とアディポネクチンの分泌異常が遺伝素因的に高血糖、高脂血症、高血圧としてあらわれ、放置していると動脈硬化を引き起こします。また、現在ではこれらの生活習慣病と同様に、骨粗鬆症も生活習慣が発生の要因と考えられています。動脈硬化から進展する心血管系疾患と、骨強度の低下である骨粗鬆症は、女性では加齢とエストロゲンの低下が原因であり、骨密度の低下が動脈硬化を引き起こす可能性や、骨と血管との間の脂質代謝の関与が示唆されています。メタボリックシンドロームに関する最近の基礎的・臨床的研究と、骨粗鬆症との関連性を実際のデータを見ながら、お話しいただく予定です。

連絡先: 東京女子医科大学

国際統合医科学インスティテュート (IREIMS)

事務局 ダイヤルイン (03) 5269-7425